

令和8年度 病害虫発生予察 注意報 第1号

令和8年4月16日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 麦類赤かび病
- 2 対象作物 麦類
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- (1) 本病の感染は開花期から乳熟期が主であり、菌の孢子形成、飛散は雨により助長されるので、この時期に曇天や降雨が続くと多発する恐れがある。また、発病後は病斑上の分生子で伝染する。
- (2) 赤かび病の孢子飛散好適日が出穂後に複数回連続して出現しており、感染に好適な気象条件が推移している（表1）。

気象庁のホームページ内のアメダスデータを参照
(<https://www.data.jma.go.jp/risk/obsdl/index.php>)

表1. 麦類赤かび病の孢子飛散好適日の出現状況

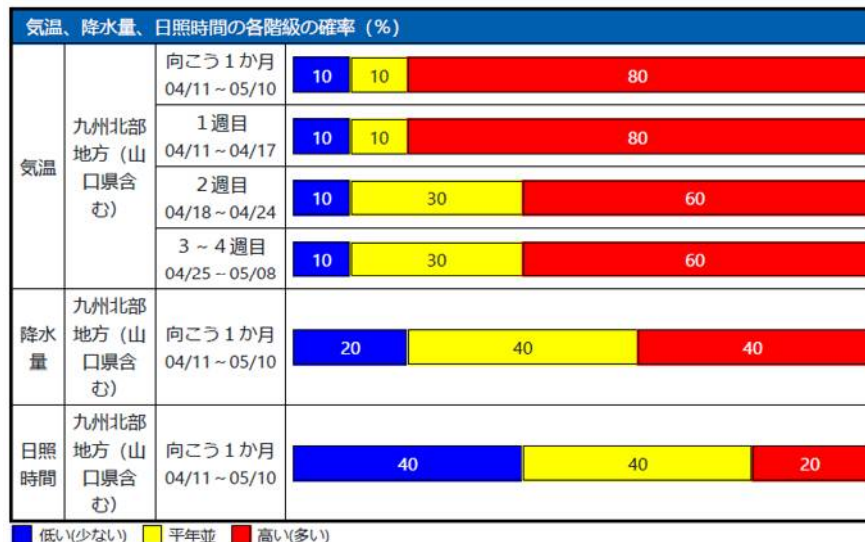
アメダス 地点	3月		4月													
	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
豊後高田	●					●						●	●		●	●

孢子飛散好適条件：①日最低気温が10℃以上、②日最高気温が15℃以上、③降雨日（又は湿度80%以上）又はその翌日、以上の3条件を満たす気象条件

- (3) 4月9日に福岡管区气象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（4月11日から5月10日まで）は以下のとおりで、高温傾向で推移する可能性が高く、降水量も平年並か多いと予想され、本病の好適条件が続くと考えられる。

福岡管区气象台のホームページより抜粋。

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#term=1month&area_type=offices&area_code=440000)



- (4) 4月9日から15日に実施した調査の結果、小麦（県内11圃場）及び大麦（県内12圃場）のいずれにおいても、現時点で発生を認めていない。
- (5) 4月16日に実施した農業研究部の予察圃場内の調査の結果、小麦（チクゴイズミ、はるみずき）及び大麦（サチホゴールドデン、ニシノホシ、トヨノホシ、ハルアカネ）のいずれの麦種においても、現時点で発生を認めていない。

7 防除対策

- (1) 本病の防除は、出穂後2回の農薬散布を基本としているが、発生が多い場合にはさらに3回目の農薬散布を検討してください。
- (2) 本病はかび毒（デオキシニバレノール：DON）を生成することが知られているので、農薬による防除を徹底する。
- (3) 防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



図1 小麦赤かび病



図2 大麦赤かび病